



一人でも入れる組合

ユニオン神奈川

No. 140

2023年8月29日

発行：日本労働組合総連合会神奈川県連合会

連合ユニオン神奈川事務局

〒231-0023

横浜市中区山下町24-1ワークピア4F

TEL:045-211-1133 FAX:045-201-8866

(相談ダイヤル) 0120-154-052

2023年平和行in沖縄

参加報告

連合本部主催の平和行動in沖縄（6月23日～24日開催）にユニオンから2名が参加した。平和行動を継承する上で、現地を通じて実態を知り、平和の尊さを学ぶことは、昨今、重要性を増している。

愛鶴労働組合

執行委員長 渡辺達也

6月23日の平和オキナワ集会及び24日のピースフィールドワークに参加させて頂きました。

集会では日米地位協定に関する説明が有りましたが、実際の中身よりは米国の都合の良い枠組みだと感じました。日頃のニュースでは中々わからない現地での声を聴く事ができ、今後はニュースを鵜呑みにはせず、自分

なりに掘り下げて認識する力をつけたいと感じました。

ピースフィールドワークではキャンピングシュワブ、嘉手納基地、チビチリガマ、普天間基地を見学しました。個人の観光では行かないと思います。

この参加が決まり多少は勉強をしましたが、実際の現場を訪れると基地に関しては、住宅や学校等にかなり近く（私は以前、大和市に住んでいました）がもつと近く感じました。日本の航空法に違反しているとの事でした。この事も日米地位協定に違反していると思えました。

チビチリガマでの出来事は正確な情報を後世にきちんと伝えるべきだと感じました。

今回参加しなかった場合、私は全く知識もなく



瀬嵩の浜から見える辺野古の海の前参加者

子供や孫に尋ねられても返答が出来なかったでしょう。勉強での知識は必要ですが、現地での声や実際に現場に足を運ぶ事の大切さを痛感しました。孫がもう少し大きくなったら観光もかねてガマ等にも足を運びたいと思います。

最後に連合神奈川の皆様、一緒に参加した皆様、有難うございました。

若菜まきつぐりセンター労働懇

顧問 佐藤竜太

一日目、平和オキナワ集会では「日米地位協定と沖縄」と題し山本章子氏の講演を拝聴し、これまでに米軍関係者による様々な事件・事故が発生するたびに運用改善や補足協定での対応が重ねられてきたもの未だに「日米地位協定」自体の本質的な改善に至っていないことに大きな憤りを覚えました。

二日目、ピースフィールドワークで名護市瀬嵩の浜から埋め立てが行われている辺野古の海を眺め、この豊かな自然環境が破壊されてしまうことは残念でありません。嘉手納基地や普天間基地などは自分の想像していた以上の規模であり、国土面積の0.6%しかない沖縄県に全国の米軍専用施設

面積の70.3%が集中していることをまざまざと実感すること、また、チビチリガマでは梅雨明け後の暑く青空の広がる中、ガマの入口に立つと昼間なのに空気が重く当時の生々しさを肌で感じ何とも言えない気持ちになりました。

実際に現地へ出向き、この目で見て、この肌で感じる事ができたことで、今後の生き方を考えさせられると共にとっても貴重な経験をする事ができました。今回、参加させていただいたことに感謝申し上げます。共にわが国で唯一、大規模な地上戦を経験した沖縄の方々にとつて戦争はまだ終わっていないと改めて考えさせられました。

沖縄の方々に、一日も早く本当の平和が訪れることを心からお祈りしたいと思えます。

第2回ユニオン学習会開催 講師は千葉景子さん（元法務大臣）



元法務大臣千葉景子さん

7月14日18時15分から1時間、元法務大臣千葉景子さんを講師に、「日本はどこに向かっているのか」立憲民主党、岸田政権、ウクライナ侵攻、台湾情勢など」と題し、現在の日本はどうなっているのか、政治はどうなるのかなど、日頃の思いを語っていただいた。

開口一番、「この国はどこへ向かいたいのか、示してほしい。そうしたら協力できるが、どこへ向かいたいかさっぱり

わからない」「中身を言わない憲法改正。日本国憲法を読んだことがあるか」と問われた。「前文には、目指す社会が示されている。この目指す社会に対する思いを持って政治活動をしてきたと自負している。現職議員は何のために、何を目的に議員をしているのか。よくわからない」「どこへ投票したらよいのかわからない。だから投票へ行かないへ繋がるのかもしれない」「政治家の家族だから政治家になった。何のために政治をしたのか、活動で答えていくのが政治家ではないか。主権者は市民であることを忘れてはいないか」



学習会の様子

「胆力のある政治家がいなくなったのではないか。反権力への闘争。政権交代をしたことで、どういう社会にしていくなか、戸惑いながらも社会を動かす立場に立った」「闘う春闘から官製春闘へ、デモからパレードへ、横並びの安心感、ITが進む中で組合活動はできるのか。IT化が進む中で政治はどうするのか」「人間は一人ひとり顔も考え方も違う。それをどうつなげていくのか。とことん議論を変えていく。人間らしく生きられる社会でありたい」「自身を振り返り、今、思っていることを話してみた。



リトルスイスといわれる滝沢園内の民宿

特別企画キャンプ報告
7月22日〜23日にかけて秦野市滝沢園キャンプ場において、機関誌『躍進』編集委員会キャンプが行われた。編集委員6名が参加。
梅雨明けが発表され、街はうだるような暑さの中、車で2時間余りで到着。丹沢山のもと、緑が目に見える。20年以上眠っていたキャンプ用品を持参。敷地内には水無川が流れ、このような中で仲間とお酒を酌み交わす贅沢な時間を堪能した。
編集委員 大塚秀明